

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分たちの言葉で理念を作り、職員概ね出来ている。「馴染みの関係」「地域資源を活かす」はホーム全体で実践に繋がられている。	法人の理念やホームの理念について、利用契約時に本人や家族に具体的に説明している。理念はホームの玄関に掲示され来訪者にわかるようになっている。ホームの理念は職員間で話し合い決めており、それに沿い地域との交流に力を入れ、様々な活動に取り組んでいる。理念にそぐわない言動が職員にみられた場合にはその場で話し、ホーム会議でも話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	回覧が廻ってきたり、地域のイベントや行事にも参加し、また月一回は事業所に足を運んでもらう機会を設け互いの交流の場がある。	自治会費を法人として納め、回覧板もホームに回り地域の情報を得ている。年2回、福祉広場や公民館で行われるお楽しみ会に利用者が参加している。ボランティアの来訪も多く、絵手紙、サウンドセラピー、料理教室、生け花等、利用者の楽しみの場となっている。毎月、「おたっしやカフェ(オレンジカフェ)」が開かれ、地域の人々の交流や憩いの場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者がキャラバン・メイトの為、地域包括支援センターの職員と協力し地域に福祉広場やオレンジカフェで「認知症サポーター養成講座」を3回行った。メイトの交流会も参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の割合で行っているが、事業所からは、代表者と管理者の出席が多く職員の人数の関係でその他の職員が出れていない。避難訓練等出された意見は向上に活かしている。	家族代表、地域代表、民生委員、地域包括支援センター職員、介護相談員などが出席し2ヶ月ごとに開催され、テーマにより地域の参加者も様々である。避難訓練についても地域住民から意見が活発に出され次の訓練に活かすことができている。開催日は概ね決めておき、決定したら案内文を全員に配布し、特に地域の方には利用者とともに手渡しで配っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は地域包括支援センター・高齢福祉課の職員とは連絡を密に取っている。相談員が月一回来所されるが、勤務の都合上会えない職員もあるため、全職員として考えると出来ていない	地域包括支援センターや高齢者福祉課とは相談や報告などで密に連絡が取れている。介護認定調査は殆どの家族が同席しホームで行われている。管理者がキャラバンメイトであり、「認知症サポーター養成講座」の講師を勤め、カフェや公民館に向いている。介護相談員の訪問時には利用者の話を聴いていただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故対策会議を開催し話し合っているが、心理的拘束(言葉による拘束)見られる為、特に言葉使いに気配りが必要と感じる。人員不足や夜間には、玄関等の施錠をしている。	玄関は日中開錠している。家族の了解を取り、フロアが職員一人になる時は玄関、入口の施錠をしているが、センサーマット等の使用はない。ホーム会議で拘束についての話し合いをし、言葉による拘束については特別注意を払うように務めている。地域の皆様にも万が一の離設等について見守りの協力をいただいている。	

グループホームサルビア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症ケア研修・身体拘束虐待防止会議で、学び話し合いの機会を設けている。また、管理者が中間個別面接を行い、職員の思いや、ケアに対する「その時の対応」を聴いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームの入居者で2名がこの制度を活用している。一般職員は、この制度を勉強不足と感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が行っている。入退所時は精神的にもご家族は動揺している為、契約者に分かりやすい言葉で、質問も受けながら十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会を行っている。この場で出た意見や実践可能な項目については、グループホーム会議で話し合い運営に反映させている。直接家族からの意見が出た時は、管理者に報告時改善に向け実践している。	利用者は全員、意見・要望を伝えることができる。家族の面会時には最近の様子をお知らせし、意見、要望をいただいている。運営推進会議や家族会で出た意見も運営に反映している。複合施設としての「あつとホームだより」と「ホーム新聞」を発行し、今年度からホームページも立ち上げ複合施設全体の様子を広く発信している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議・サービス担当者会議等月2回設け、職員の意見を聞く機会を設けている。この時意見が出せるよう職員自身のレベルアップも必要。	グループホーム会議やサービス担当者会議で職員の意見を汲み上げている。事務所内に「気づいた事何でも書いてくださいシート」が張られ、日々のメモで提案を行い会議で話し合うシステムができています。「チャレンジカード」に基づき管理者による面接が年2回行われ、また、職員交流のための旅行・新年会等もありコミュニケーションアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	4月から代表者が変わった。「地域密着事業はどんどんやって下さい」と考え方は協力的。保育所を作るなど、働きやすい様環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が中心に行っている。中堅職員(3年以上)もいるが、人材育成の視点を持って職場に入っている職員は少ないという意見もある。		

グループホームサルビア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は意欲的に行っている。管理者も馴染みのホームと行き来あり、他ホームの活動で良いところは取り入れている。また、悩み相談やお願いなども出来る関係。ホームのイベントにも来ていただいたり、管理者もイベントや研修会に参加させてもらっています。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉・表情・様子を気にかける。本人の言葉、言葉の裏に隠れている思いを引き出す様に努めている。職員多いが、職員のレベルに差がある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に管理者が行っている。職員の中には近況を伝える際に家族の意見を伺うようにしているが、どの職員でも経験に関係無く、相手に耳を傾ける気持ちは必要。たまに管理者任せ、人まかせになっている場合がある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の想いを受け止め、サービスだけでなく人との繋がりも大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りが可能な方には一緒に食事をし、一緒に同じ物を食べている。配膳下膳・食器洗いなど、可能な限り本人が役割として出来ることを、一緒にさせて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者は出来ている。全職員となれば、なかなか難しい。職員のスキルにも差があり、家族の気持ちまで支援されていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来ている方もいて、入所前の美容院に行ったりされる方もいるが、ほとんどの方が途切れている。入所が長い方は特にそうです。	地域の方や甥・姪・曾孫等の来訪がある。入居前から利用している美容院に行かれる方は職員が同行し「若々しくね」と店長と話をするなど、馴染みの関係を継続している。年賀状・絵手紙・暑中見舞いなども家族に出している。お墓参りにも行っているが、車椅子が中まで入れず難しくなっているという。	

グループホームサルビア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶時等自ら選び、自分の好きな場所に座っている。歌や体操等で交流出来るようにしている。散歩時他の利用者さんの車椅子を自ら押している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	絵手紙サークルや交流会に来ていただき、退所された家族との交流も長く大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子の観察や気づきを職員で話し合いをしたり、「ひもときシート」を利用して本人の思いや暮らしの希望を検討し実践に努めている。	殆どの方が思いや意向を表出することができる。自らできることはやっていただき、できない所をさりげなくお手伝いするようにしている。「ひもときシート」を活用し全職員で話し合い、利用者へ「申し訳ない」と感じさせず、遠慮なく暮らしていただくようなケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員間で差はあるも、これまでの暮らしを本人や家族に聴きながら実践している。入居者が口ずさんでいる歌を聞き取りながら文字にし、皆で歌えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ほぼ同じサイクルの暮らしになってしまっている。気持ちに寄り添い出来る事は、一緒に楽しみながら行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者任せになっていることが多い。管理者は職員の気づきを引き出す様に努めてたり、担当を決めたりしているが、職員にレベルの差がある。	職員は1~2名の利用者を担当しているが全員で関わっている。モニタリングを行いサービス担当者会議で話し合い、計画作成担当者がプランの作成を行っている。短期目標は3ヶ月、通常見直しは6ヶ月ごとに行われ、プラン作成時には家族に来訪していただき希望を聞き計画に反映させている。心身に変化が見られた時には即時にサービス担当者会議を開き対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉や行動を記録に残すこと、出来ている職員とそうでない職員がいる。定期的にモニタリングをし、話し合う体勢は出来ている。		

グループホームサルビア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族対応が難しい通院や薬受取等、職員が代わって行っている。また、衣替え時職員が入居者と一緒に家に行き、衣類を持って来るなどしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	管理者は出来ているが、新人も含め一職員はなかなか難しい。まずは広報配布等を通じ自ら地域を歩く事が必要と職員には伝えてあるので、少しずつ前進していると感じる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医・精神科医・歯科医・皮膚科医・それぞれ出来ています。	定期受診についてはホームのかかりつけ医に(内科・精神科)家族が付き添い受診している。歯科・皮膚科は往診で対応している。週1回訪問看護ステーションの看護師が来訪し、健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回訪問看護。急変時には24時間連絡が取れるようになっている。何時でも相談出来るような体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急変時のマニュアルは出来ているため、連絡等は出来る。主に管理者・サブリーダーが対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	書面にて家族の意思確認し、全職員が把握している。窓口は管理者だが、看取りの研修なども全職員が済んでいて、訪問看護も連絡が取れる等体制は整っている。	利用契約時に重度化した際の対応について話をしており、状況に応じてその都度話し合いの場を持ち、再度書面なども取り交わしている。過去数名の看取りの経験があり、看取りの研修を全職員が受け、24時間、訪問看護ステーションと連絡が取れるようになっている。家族の希望で同じ法人の特別養護老人ホームに住み替えをされる利用者もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル有りや、訪問看護への連絡が取れるようになっている。		

グループホームサルビア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練がある。実際訓練で見えてくるものがあるので、全職員に体験してもらい、対策をしっかりと身に付けてもらっています。町会長・日赤奉仕団・組長(毎年代わる)地域住民の協力は10年ほど前から継続して避難訓練に参加していただき、意見をもっています。	年2回消防署員・消防団員立会いの下、併設の介護老人福祉施設と合同で避難訓練を実施している。利用者も全員参加し夜間想定での訓練も実施し、地域住民、町会長、日赤奉仕団、組長などの参加もいただき、適切な指示系統の確認等が行われている。地域住民の協力は大きく、地域との防災協定も結ばれており避難訓練後、反省も踏まえ運営推進会議が開催されている。本年度は水害を想定した訓練を計画している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ時の声かけなど、馴れ合いになってしまい、配慮が欠けている職員がいる。声の大きさ・話す内容等考えての声かけが必要と感じる場合がある。	人生の先輩として敬意を払い、言葉遣いに気をつけるよう努めている。呼びかけは「苗字」にさんを付けお呼びしている。トイレ時の声掛けに研修生から指摘があり、配慮に欠けている場面が見られたことから会議で話し合い、気をつけて支援に取り組んでいる。プライバシー・コンプライアンス研修が法人として行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	メニュー決めや、洋服選びなど聞くように心がけている職員多いが、重複して訴え多い時など、話を聴き逃していることがある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ね出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人好みのブラウスが着れる様配慮したり、お化粧品が出来るよう品物を取り揃える様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの飲み物が飲めるよう(コーヒー・紅茶・昆布茶・りんごジュース・ポカリスエット・番茶・ココアなどが常時用意してある。お茶の用意を一緒にしていただいたり、コーヒーをたててもらおう事が出来るよう環境を整えている。	全員箸を使い自力摂取できている。栄養士や調理師の指導を受け献立を作成し、毎日3食利用者と一緒につけている。利用者の持てる力を引出し、材料の準備、切る、盛り付けなど、お手伝いをさせていただき、また、畑で収穫した野菜も食卓に上がり楽しく食事ができている。食材の買い出しに毎日利用者と職員が一緒に出かけている。好みのランチョンマットを敷くなど、横の方との区別にも配慮がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ほぼ出来ている。離床時間がズレても水分摂取に心がけている。		

グループホームサルビア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回歯科衛生士が入っている。食後は口腔ケア出来るよう、声がけをしている。週一回、ポリドント使用。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁チェック表を用い、失禁を減らすようにしている。パット交換が当たり前になってしまい、「失禁無く」という意識がもてていない。	自立の方は若干名で、他の方は一部介助、見守りで排泄されている。費用のことも考え殆どの方が布パンツにパット使用である。排泄チェック表を作成し利用者個々のパターンに合わせきめ細かく誘導するよう心がけ、トイレで排泄を行い、気持ち良く生活が送れるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操・散歩・心がけている。下剤等は使用せず、食生活の見直しをこまめにしている。午前中のおやつはヨーグルトにお茶。一日2回のスムージー等		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ホームでの入浴厳しい方(2名)については、週2回リフト浴を使用している。その他の方は自由(毎日入浴している方等)時間も14時から17時何時でも入浴できます。希望があれば夕食後も入浴出来る。	基本的に週2回入浴している。希望に沿い毎日入っている利用者もいる。一般浴が大変な方は併設の介護老人福祉施設のリフト浴を借り入浴している。季節により「ゆず湯」、「菖蒲湯」、「りんご湯」等を行い、音楽好きな方には音楽を流し入浴を楽しんでいただいている。年2回、ホームの床掃除の日には近くの温泉施設に全員で出かけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を特に決めてはいるわけではないので、夕食後直ぐの方もいれば、テレビを観て23時という方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり用法や用量は理解しているが、副作用等は熟知出来ないこともある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の様子も加味して出来ていると思う。見極めながら、役割を持ってもらう。不安時の対応も本人の声聴きながら対応している。(外に行きたい。二階の姉の所に行きたい。買い物に行きたい。外食したい。)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出掛けたい意思表示で行くことがほとんどだが、隠れたニーズを引き出せていない場合もある。車椅子や年齢的な事を考え出かける人に偏りがある。	近所を散歩したり、畑に行ったり、広報の配布、買い物、ゴミ出しなどを行っている。JAや銀行などに行くこともあり、何らかの形で日々外に出かけている。冬季は職員が付き添い併設介護老人福祉施設の中を歩き身体機能の低下を防ぐと共にサンルームにある観葉植物や季節の花を鑑賞している。花見の時期には近所に出かけ桜の下で昼食をしながら楽しんでいる。	

グループホームサルビア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名の入居者は出来ている。(自分で財布を持っている)買い物後ホームに戻り、一緒に会計する。1名の方はお財布を手渡せば支払う事ができる。7名の方は理解無く難しい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	介護度が全体的に上がった為、難しくなっているが、暑中見舞い・年賀状は、入居者(宛名は職員)が絵手紙を書き送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を生けたり、午後になると直射日光を避ける為、カーテンを閉めるなどしている。ボランティアの協力を得て、椅子の背もたれにカバーを付けた。季節を感じていただけるよう、時期の飾り付けを入居者と一緒に行う(手形のクリスマスツリー飾り等)	今まで季節を感じさせるクリスマスツリーを飾っていたが、車椅子の方が増え移動に邪魔になることから今年は模造紙に手形を押しモールを飾ったツリーが壁に張られ目をひいていた。絵手紙作品も数多く飾られ、どこでも座ることができるように椅子があちこちに置かれている。ホームの空調は全てエアコンと床暖房で、快適である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の場所以外にフロアで過ごす事の出来る椅子が設置してある。TVスペースは別フロアから離れて過ごす事が出来る玄関フロアにある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	相談できる方には相談し、年末掃除(カーテンフックの取り外し等)出来ることは一緒にやっていたき、綺麗になった達成感を一緒に味わっている。	洋室が6部屋、和室が3部屋ありそれぞれ希望により利用されている。洋室にはベッド、和室では畳に布団を敷き、各居室には使い慣れた家具や物入が置かれ、書道や絵手紙、職員からの写真付きメッセージカードなどが張られ、日差しも差し込み明るく気持ちよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床の汚れ気づき、片付けされる。道具「ほうき・ちりとり等」の用意をさり気なくし、感謝を伝えている。長ネギや玉ねぎ・りんごの皮むき等してもらっている。片付けまで皆さん熱心に行っている。		